

1. 管内課題とその要因 (R4 Check まとめ)

- 実効性の高い検証改善サイクルの確立
  - ・エビデンスに基づく課題が曖昧である。
  - ・効果的な取組が教育課程に位置付いていない。
  - ・協働体制組織を整備する必要がある。
- 授業改善
  - ・説明中心の教師主導の授業が多い。
  - ・1人1台端末の日常的な活用による「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実が図られていない。
  - ・身に付けさせたい資質・能力を踏まえた、単元(題材)指導計画の作成が進んでいない。

2. 管内教育推進の重点 (学力) (R5 Plan)

- 好循環を創出する検証改善サイクルの充実
- 子どもを主語にした授業づくり

3. 具体的な改善策 (R5 Plan)

- (1) 好循環を創出する検証改善サイクルの充実
- エビデンスに基づく課題の明確化や課題に正対した取組の設定、期限を定めた取組の実施、評価、改善に取り組む。
  - 検証改善サイクルの確立により明らかになった効果的な取組の教育課程への位置付け、カリキュラム・マネジメントにつなげる。
  - ミドルリーダーの役割の明確化と全教職員の課題解決への参画意識を高める協働体制組織の整備や柔軟な見直しを行う。
- (2) 子どもを主語にした授業づくり
- 子ども一人一人が何を学んだかを自覚し、自分のよさや可能性を認識できたかという視点で、教員自身が授業を見直す必要がある。
  - 誰一人取り残すことのない「個別最適な学び」と多様な考え方に触れよりよい学びを生み出す「協働的な学び」の一体的な充実を図る。
  - 授業のねらいを踏まえ、子ども一人一人が学びの成果や過程を振り返り、次の学習への意欲を高める「振り返り」の時間を意図的に設定する。
  - 「時間」「字数」等の条件に応じて書く活動を日常的に行うなど、言語能力を育成する機会の充実と言語環境の整備を図る。

4. 具体的な取組計画 (R5 Plan) ※年度途中で追加・変更した事項は「●」を先頭に記載、取り止めは見え消し線

月	(1) 好循環を創出する検証改善サイクルの充実	(2) 子どもを主語にした授業づくり	月
4			4
5	学校訪問における指導助言(計画訪問:5月~9月、要請訪問:通年)	学校訪問における指導助言(計画訪問:5月~9月、要請訪問:通年) ShiriBeshi Learning Boxプロジェクト学び方スキルアップセミナー(5月~1月)	5
6	E B E 協議会①	● 中堅教諭等資質向上研修・初任段階教員研修等における指導助言 ・教諭を対象とした組織的な授業改善に向けた指導助言	6
7	学校運営研修	ShiriBeshi Learning Boxプロジェクト学力向上オンラインセッション	7
8	● 義務教育指導監による学校経営サポート ・校長への学校経営指導訪問 ・メール等による個別の学校経営相談 ・校長や教頭を対象とした講話・助言	ShiriBeshi Learning Boxプロジェクト英語力向上セミナー① ShiriBeshi Learning BoxプロジェクトICT活用オンラインセッション	8
9	● 義務教育指導監による市町村の教育のサポート ・市町村単位の校長会議や教頭会議に出向いた指導助言	ShiriBeshi Learning Boxプロジェクト英語力向上オンラインセッション	9
10		● 指導主事による授業づくりサポート ・スクールコンサルティング(Web面談) ・各学校の課題に応じた校内研修への支援 ・初任層の多い学校等への複数回訪問など重点的支援	10
11	E B E 協議会②		11
12		ShiriBeshi Learning Boxプロジェクト「英語力向上セミナー②」	12
1	E B E 協議会③	● 各種指定事業における継続的な指導助言	1
2	E B E 協議会④(局独自)		2
3			3

5. 管内の取組の指標となるデータ (8-9月にR5年度全国学力・学習状況調査の結果を加え整理)

